

2020年3月期 3Q決算
アナリスト・機関投資家向け決算説明 Telefonカンファレンス 主な質問

2020年2月5日
セガサミーホールディングス株式会社
財務経理本部 IR部

- 開催日時 2020年2月5日(火) 13:00～
- 回答者：高橋 真 (セガサミーホールディングス株式会社 上席執行役員 グループ代表室長)
大脇 洋一 (セガサミーホールディングス株式会社 上席執行役員 財務経理本部長)

遊技機事業

Q：遊技機の許認可取得状況を伺いたい

A：2018年2月の規則改正後、特にパチスロにおいて適合率の低迷が続いていたが、徐々に改善が見られている。直近では20%台半ばくらいまで改善しており、当社タイトルも複数適合が出ている。

Q：複数タイトルに適合が出ているとのことだが、来期に発売した方が需要面から収益の最大化が見込めるために発売時期を変更したとの理解でよいか。

A：そのような側面も含め、市場の動向を踏まえて、適切な発売時期を今期、来期どちらにするか見極めた結果、いくつかのタイトルを来期に持ち越した。

Q：パチスロの自主規制見直しやパチンコの解釈基準の変更があったと思うが、現在開発中の遊技機はすべて変更後の基準に対応した機械に切り替えているのか。年末で入れ替えがあまり進まなかったが、その分来期は新基準機で入れ替えが盛り上がりと考えてよいか。

A：既に適合を受けた機械について、新基準の遊技機にどう合わせていくかは市場動向をみて考えていきたい。
また、今回の変更については、遊技性が向上するという意味でプラス面もあるが、ユーザーの反応も見ながら改良していくため、一概に今後すべてを新基準機にするわけではない。既に適合を受けているものについては、発売時期も含め見極めたい。

エンタテインメントコンテンツ事業

Q：映像・玩具の3Q累計実績について、玩具と映像の内訳を伺いたい。

玩具の年末商戦が全体的に悪い中、『マウスできせかえ！すみっぐらしパソコン』だけは好調で、現在も品切れの状況が続いているようだが、この状況がセガサミーに対してプラスに働いているのか確認したい。

A：映像・玩具分野の業績内訳は非公表とさせていただきたい。また、『マウスできせかえ！すみっぐらしパソコン』については、現状、計画台数を上回る販売状況となっているが、玩具については売上や利益を1商品に依存しているわけではなく、複数の要素で構成されている。

Q：映像/玩具分野の通期修正計画では、前期比で売上、営業利益が増加しているが、映像・玩具のどちらが増加しているのか。

A：映像で増加、玩具は前期並みを見込んでいる。

Q：4Qに織り込まれている、在庫の試算性検証等の見通しをセグメントごとに伺いたい。

A：エンタテインメントコンテンツ事業全体で30億円程度の見込み。
主にパッケージゲーム分野とアミューズメント機器分野で発生する想定。

Q：デジタルゲーム分野は、今期はタイトル譲渡及びタイトル提供等で利益が上がったものの、運営タイトルによる利益はあまり増加していない印象がある。来期も同様に一過性収益による積み上げは期待できるのか。
また、パッケージゲーム分野では、今期は新作タイトルの販売本数が期初計画を下振れしていると思うが、来期はそれを踏まえてもリピートを大きく伸ばせる年と考えてよいか。

A：傾向としては、来期も引き続きデジタルゲーム分野にてタイトル譲渡等や、堅調に推移している既存タイトルの運営による収益を見込むほか、パッケージゲーム分野は、今期同様にリピートが堅調に推移すると見ている。

Q：AM機器が今期赤字転落しているが、ここまで悪化した要因はなにか。

A：3Qまでの利益面の悪化要因としては、今期発売した『StarHorse4』が機器販売のため、前期に販売したStarHorseシリーズのCVTキットに比べて利益率が低くなっているほか、前期好調であったビデオゲームの売上が低調に推移したことなどが影響している。また、AM機器分野に関しては、前期実施した本社移転の影響により6億円程度、固定費が増加している。4Qでは、3Qまで堅調に推移していたプライズ商品の売上減少や、ビデオゲームの稼働低調に加え、期末の在庫の試算性評価費用を見込んでいることから、減益を見込む。

その他

Q：固定資産譲渡益の詳細を伺いたい。

A：11月28日に発表した、サミー所有の不動産を譲渡したもので（[当社連結子会社における固定資産の譲渡および特別利益の計上に関するお知らせ](#)）、売却価格は非開示だが、当社の特別利益として29億円を計上している。

Q：コロナウイルスによる業績面での影響があれば伺いたい

A：今期においては、大きな影響はないと見込むが、各事業にていくつか懸念事項がある。

遊技機事業：

今期への影響は見込んでいないが、延長された春節以降の仕入品の納品、工場の稼働停止、生産スケジュールへの影響等の状況を見極める必要がある。

エンタテインメントコンテンツ事業：

AM機器のプライズの一次的出荷停止による機会損失リスクが懸念され、4Qで2億円くらいのリスクを織り込んでいる。AM機器販売、玩具の製品販売において、今期への影響は大きくないとみているが、遊技機同様に春節以降の状況を見極める必要はある。

リゾート事業：

『PARADISE CITY』の数値は3カ月遅れて取り込むため、今期への影響はないが、来期以降は見極める必要がある。

以上